

西尾町内会では、令和6年度に

「地区防災計画」を策定しました!



地区防災計画とは

地区防災計画は、地域住民による自発的な防災活動であり、東日本大震災を契機に平成25年に創設されました。

過去の災害において避難や救命救助などに大きな役割を果たしてきた地域での助け合い、支え合いの「共助の力」を育む取り組みです。

計画策定までの流れ

町内会役員、組長、各種団体などが地域の代表として集まり、過去の被災地支援の実績がある認定NPO法人愛知ネットの協力を得て、ワークショップ（話し合い）を行いました。

参加者で意見交換を行い、令和7年度以降に防災活動の内容を作成しました。

実施内容(ワークショップ3回)

ワークショップ①

地区防災の理想と課題を整理

地域の特徴から地域防災を考えるワークショップ（話し合い）を行い、地域防災の理想（あるべき姿）を考え、「隣に声掛け、みんなで防災、助け愛」をみんなのテーマとしました。



ワークショップ②

災害時の課題に対するアプローチ方法

安否確認、防災訓練、備蓄食料などの災害時の課題から1つを選択して、課題解決に向けた話し合いがなされました。



ワークショップ③

防災活動メニュー企画書の作成

課題解決に向けての具体的なアイデア出しを行いました。

企画書の内容は裏面をご覧ください



西尾町内会でこれから取り組む「地区防災計画」

グループ
A

備蓄品・機材の紹介



目的 備蓄品、機材の紹介と使い方の体験

対象者 町内会員

協力者 自主防災会、女性防火クラブ、消防団に協力してもらう。なお、評議員はもちろん参加、組長は協力程度とする。

内容

春祭りに自主防災が主催で実施する

- ①防災ブースを設ける
- ②炊き出し（汁物、ご飯を炊いておにぎり）
- ③資機材（水消火器、簡易担架）を取り出して、使い方のレクチャー
- ④なまず号（子どもも興味をもてるように）
- ⑤4人1家族の3日分は、どのくらいの備蓄量が必要なのかを展示する

グループ
B

防災連絡網の確立

目的 災害時の避難所開設、支援物資の状況などを情報発信する。
また定期的な安否確認も行う。

内容

- ①LINEなどを活用して、防災用の連絡網を作成する
例：組単位でLINEグループを作成し、情報共有をする
- ②組総会で賛同してもらい、共通認識してもらう
- ③チラシ作成（使用目的、必要性、趣旨を明記）

グループ
C

避難経路の確認

目的 避難場所、避難経路の明確化

※情報は町内会にあるらしいが、共有されていないため

内容

- ①避難経路マップの作成
・回覧板の表紙などに貼り付ける（1年目）
- ②避難訓練
・昼間を想定とした訓練（2年目）
・夜間を想定とした訓練（3年目）
・要支援者避難を想定した訓練（4年目）

グループ
D

南地区での避難訓練

水害・
地震

目的 地震や水害のリスクがあるが、避難場所などの周知がされていないため、周知徹底を図ることを目的とする。

内容

- ①春祭りで避難場所を参加者に知ってもらう
例：スタンプラリー、クイズ形式⇒安祥地区に特化したハザードマップの配布
- ②チラシ作り
・自宅から西尾神託までの避難ルートを確認
・南地区の人をメインにウォークラリー形式で実施

グループ
E

備蓄意識向上

目的 まずは、個々の備蓄を増やす

内容

- ①1人あたり1日必要なアイテムと量のPR
- ②市報で再三取り上げている
- ③祭りなどでPRする
・秋の祭りで備蓄サンプル品を展示する
- ④回覧で知らせる

グループ
F

防災備蓄の啓発運動

目的

- ①自宅での食料備蓄の必要性を高めていただく
- ②賞味期限が近いものを渡すことにより、意識をもっていただく

内容

- ①春祭りで防災倉庫を見学して、各家庭の備えを見直すきっかけとする
- ②防火クラブによる啓発資料を作成する。
また、町内会の備蓄についても検討する。
- ③入口に防災用品を展示して、関心を持っていただく
・実際に防災倉庫を見学、現状の備蓄状況についてアンケートを取り確認する。アンケートを集計して、次年度に活かす。